

# 環境創造センターについて

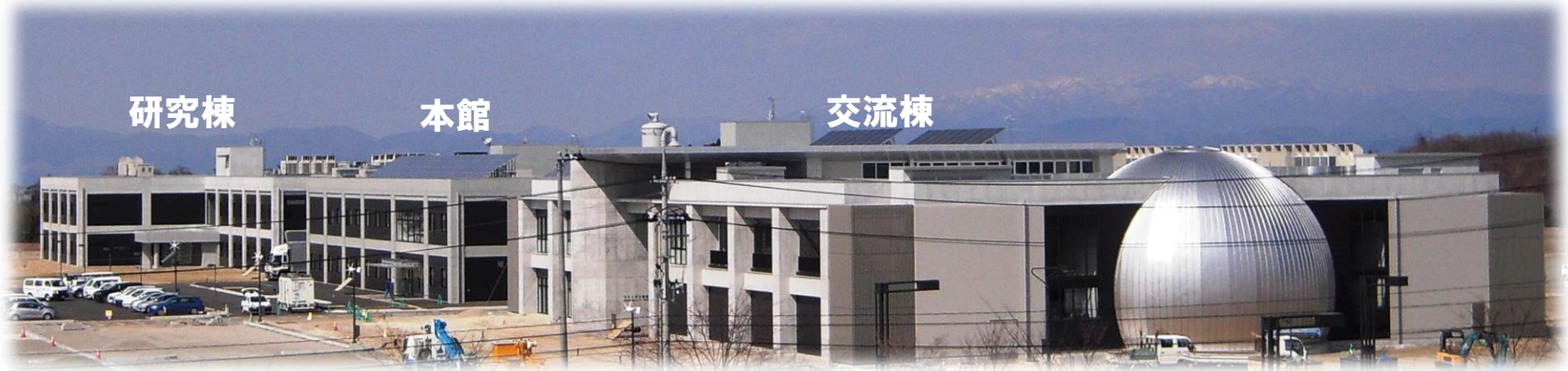


ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

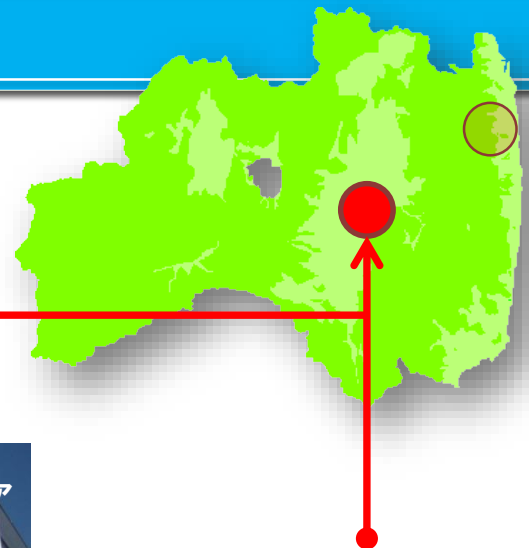
## ● 環境創造センター

環境創造センターは、環境の回復・創造に取り組むための調査研究及び情報発信、教育等を行う総合的な拠点施設として、福島県が設置するもの。



- |          |  |
|----------|--|
| 平成24年10月 | 環境創造戦略拠点基本理念策定<br>環境創造センター基本構想策定           |
| 平成24年12月 | 福島県とIAEAとの間の協力に関する覚書に署名                    |
| 平成26年 3月 | 三春町施設本館及び南相馬市施設着工                          |
| 平成26年10月 | 〃 研究棟及び交流棟着工                               |
| 平成27年 2月 | 環境創造センター中長期取組方針策定                          |
| 平成27年 4月 | 日本原子力研究開発機構・国立環境研究所との連携協力に関する基本協定締結        |
| 平成27年10月 | 環境創造センター本館及び環境放射線センター業務開始<br>環境創造センター本館開所式 |
| 平成27年11月 | 環境放射線センター開所式                               |
| 平成28年 3月 | 研究棟・交流棟完成、引き渡し                             |
| 平成28年 7月 | 環境創造センターグランドオープン                           |

# 施設概要



- ・日本原子力研究開発機構(JAEA)及び国立環境研究所(NIES)が入居
- ・JAEAは、主に放射性物質による環境の汚染を除去し、環境を回復させるための調査研究を実施
- ・NIESは、主に放射性物質の動態解明や災害廃棄物についての調査研究を実施



研究棟

- ・福島県が入居
- ・1階は環境放射能のモニタリングや調査研究を行うエリア
- ・2階は大気、水、廃棄物のモニタリングや調査研究を行うエリア



本館

- ・ふくしまの子供たちが安心して輝く未来を創造するための「対話と共創の場」
- ・ふくしまの環境を知り、創り、発信する展示や、国際会議・学会・等を開催するホール・会議室等を備える。
- ・シアターでの映像や企画展示は、国立科学博物館と連携・協力



交流棟

## 附属施設



大玉村



猪苗代町

- ・モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流の4つの機能を持つ
- ・国際原子力機関(IAEA)の緊急時対応能力研修センターが同居
- ・子供たちはもとより国内外からの見学者を迎えられる県民に開かれた施設

200名規模の学会・講演会・シンポジウムなどが開催可能



# 施設概要 — 交流棟における展示 —

## ■ 基本的な考え方

展示体験を通して県民の不安や疑問に答え、放射線や環境問題を身近な視点から**理解し、環境の回復と創造への意識を深める**ことを目指します。

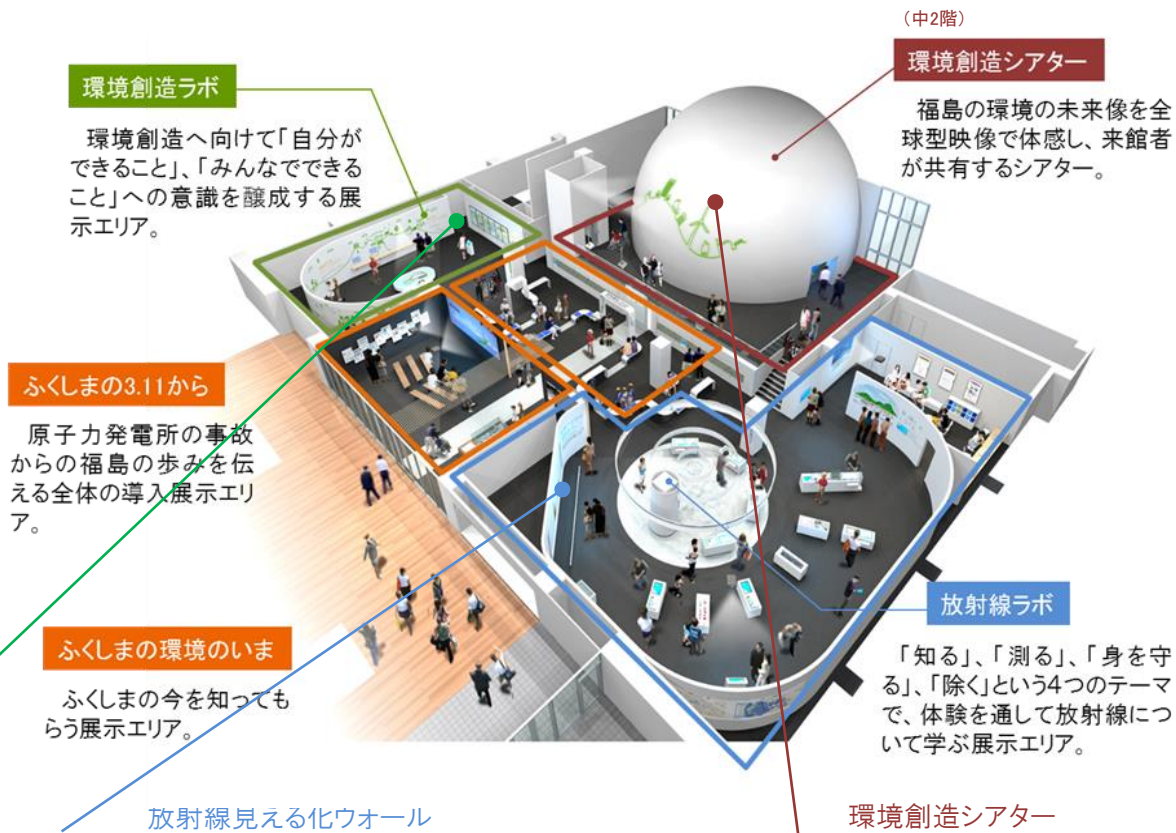
学びや体験から得た知識や深めた意識を、子どもたち、県民や様々な団体が共有し、それぞれの立場から**福島**の未来を考え、**創り、発信する**きっかけとなる場を目指します。

交流棟愛称  
**コミュタン福島**

ふくしま環境創造タウン



## ■ 展示ゾーニング図



## ○モニタリング

空間線量や放射性物質のきめ細やかで継続的なモニタリングを行うとともに、緊急時におけるモニタリング体制を整え、緊急時の対応に当たります。

## ○調査研究

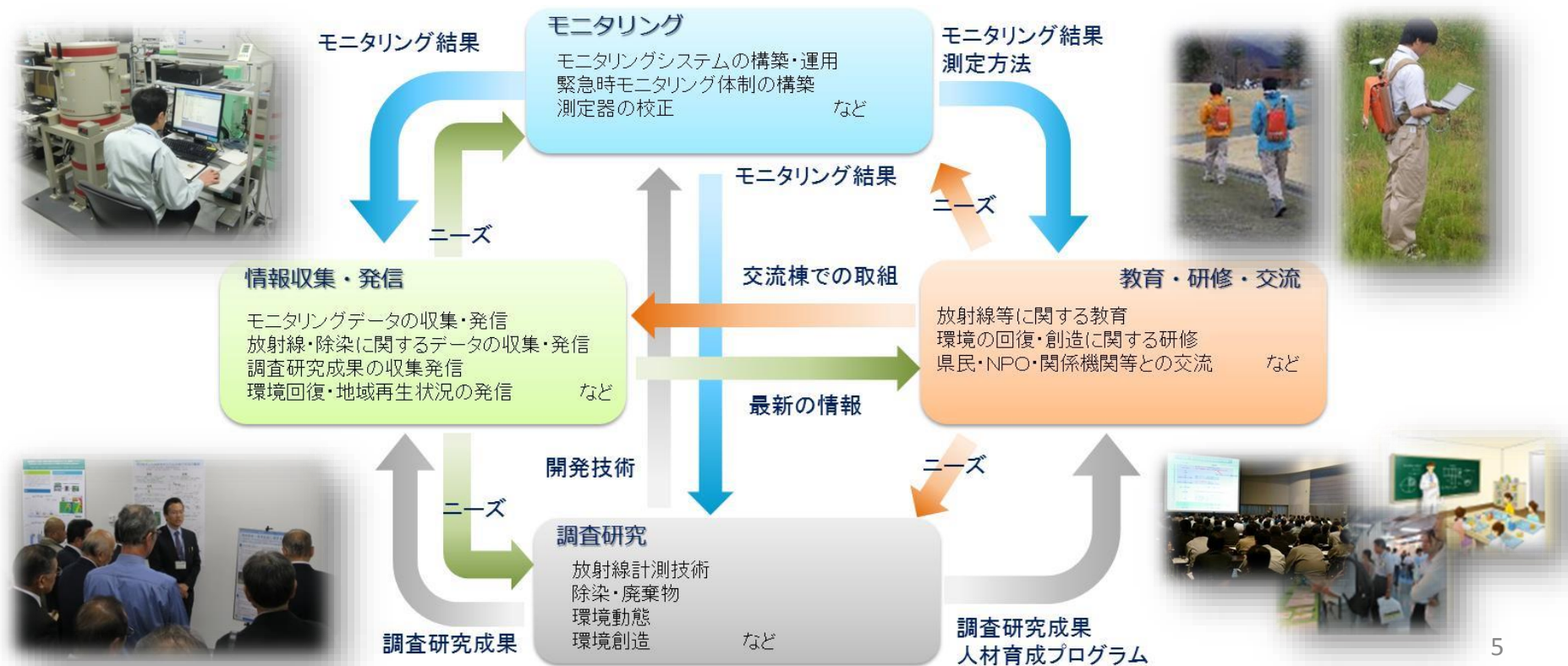
放射線計測、除染・廃棄物、環境動態、環境創造について調査研究を優先度に応じて計画的、体系的に進め、適時・的確にその成果を活用していきます。

## ○情報収集・発信

関係情報を収集整理し、県民等が分かりやすい形で活用できるような情報発信体制の整備を進めるとともに、世界が注目する知見や経験を国際的に共有するための積極的な情報収集・発信を行います。

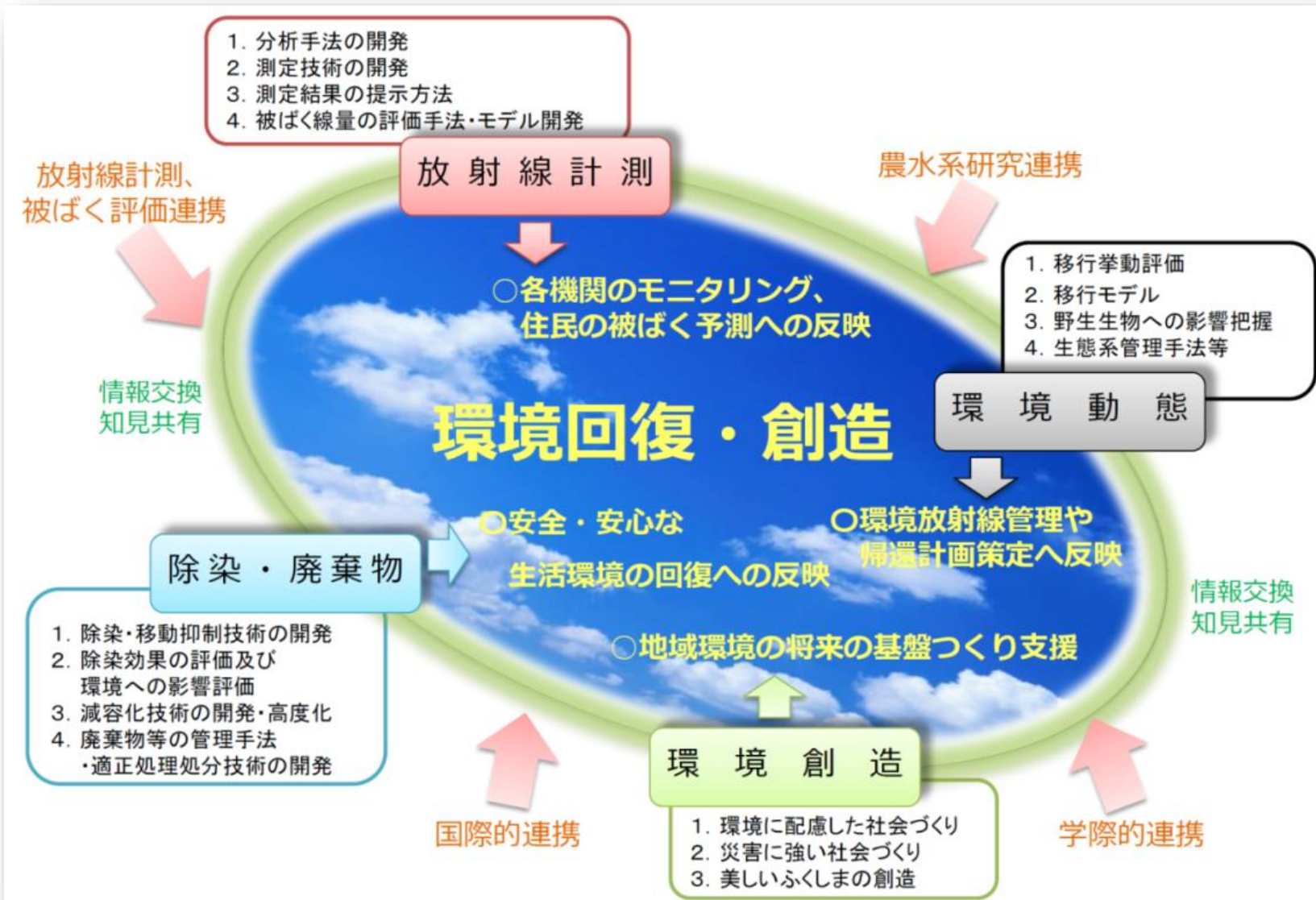
## ○教育・研修・交流

福島県の環境の現状や放射線に関する正確な情報を伝え、本県の未来を創造する力を育むための教育・研修・交流に取り組みます。また、大学等と連携した長期にわたる人材育成に貢献します。



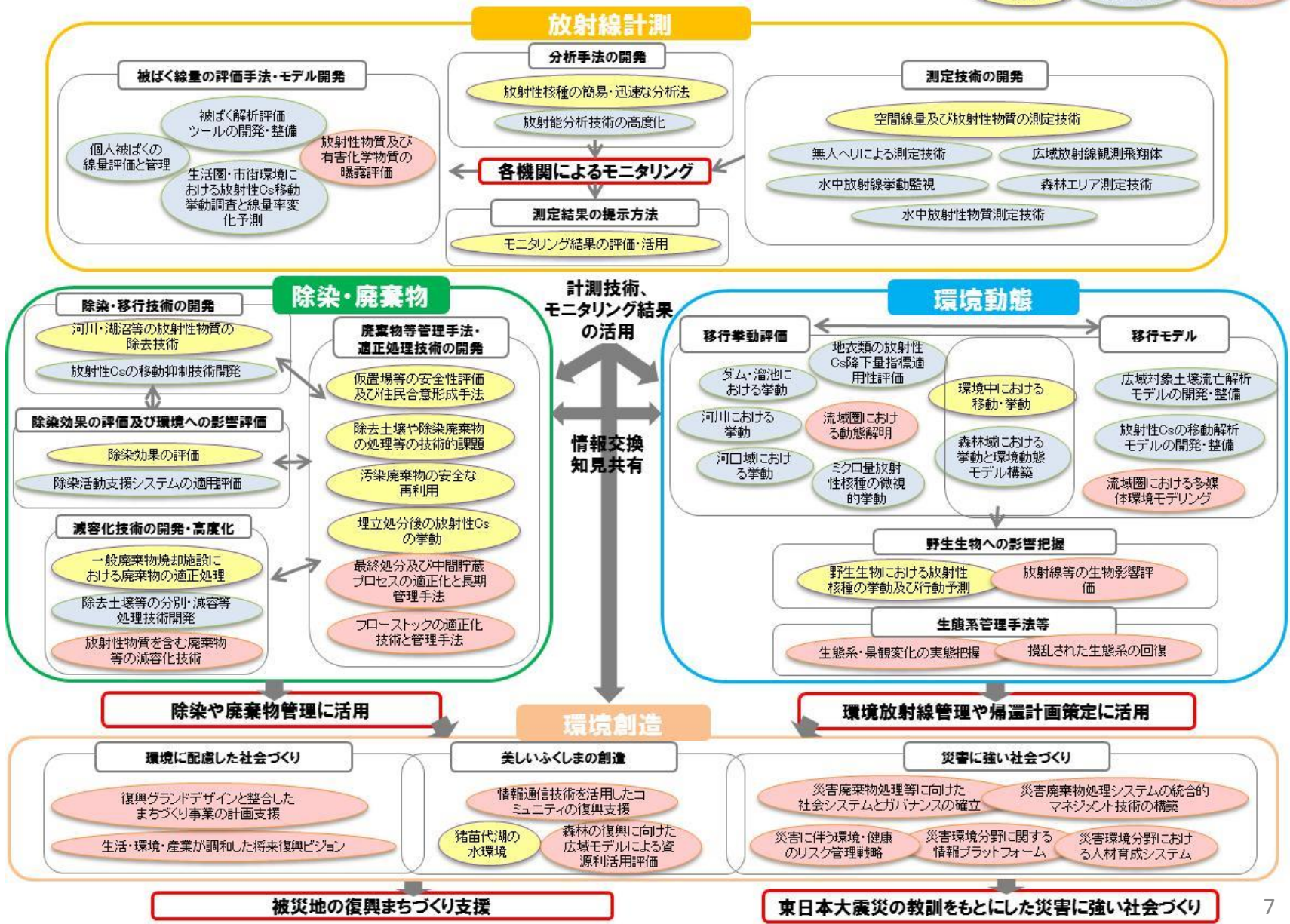


県、JAEA及びNIESは緊密に連携し、放射性物質に汚染された地域の環境回復・創造のため、放射線計測、除染・廃棄物、環境動態、環境創造の4つの部門で調査研究を進めます。



# 三機関における調査研究の連携図

県 JAEA NIES





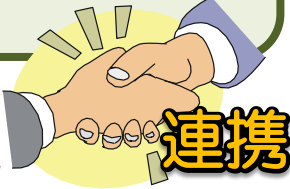
# IAEA協力プロジェクト(福島県とIAEAとの間の協力に関する覚書の概要等)

## 覚書

### 福島県とIAEAとの間の協力

#### 福島県とIAEAとの間の実施取決め(協力分野:放射線モニタリング・除染)

- 協力プロジェクト
- ① 福島における除染
  - ② 除染活動から生じた放射性廃棄物の管理
  - ③ 無人航空機による環境マッピング技術の活用
  - ④ 分かりやすいマップ作成のための放射線モニタリング・データ活用上の支援
  - ⑤ 放射線安全及びモニタリング・プロジェクトの管理支援

※ 県提案プロジェクトを含め  
10の協力プロジェクトを実施  **連携**

#### 福島県立医科大学とIAEAとの間の実施取決め(協力分野:人の健康)

- 協力プロジェクト
- ① 医療関連専門家及び医学生能力開発による放射線医学教育の強化
  - ② 心的外傷後ストレス障害を含む放射線災害医療における研究協力の強化
  - ③ 原子力又は放射線緊急事態の際に支援を行う医学物理士のための具体的なトレーニング・パッケージの作成

### 緊急時対応能力 研修センター

#### 外務省とIAEAとの間の実施取決め(協力分野:緊急時対応)

- 協力内容
- ① RANET(※)機材を福島県に保管
  - ② 各国・自治体関係者向けに福島県において研修等を実施
  - ③ アジア太平洋地域の緊急事態においてRANET機材を使用

※RANET(Response and Assistance Network)とは、IAEAにおいて、原子力事故又は放射線緊急事態発生時の国際的な支援の枠組みとして構築された、緊急時対応援助ネットワーク。



# 仮置場保管の長期化による課題

- 保管容器の耐久性への懸念

- 保管容器の耐用年数は3年が一般的

- 4年超の仮置場が増加

- 仮置場管理における課題抽出と解決策提案

つり上げ時のベルト破断



運搬時の衝撃等による生地破れ



突起物による生地突き破り

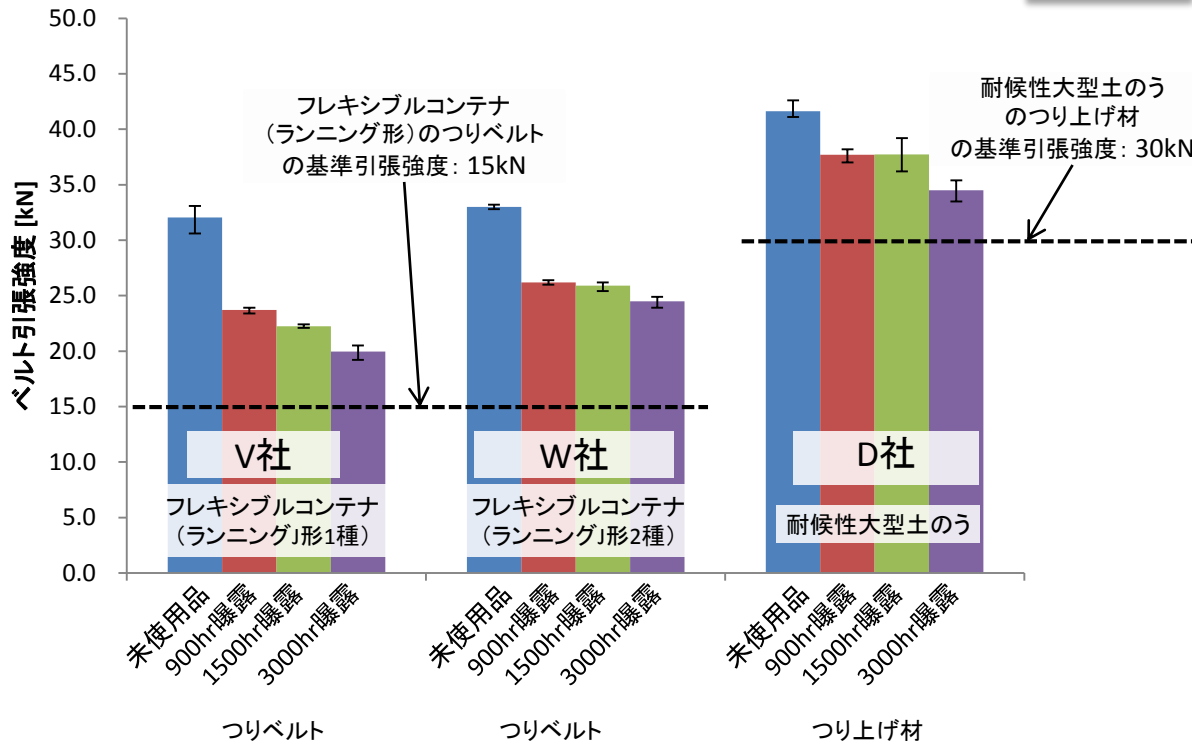


# 試験結果 (一例)

## つりベルト(フレキシブルコンテナ) 及びつり上げ材(耐候性大型土のう)の引張強度

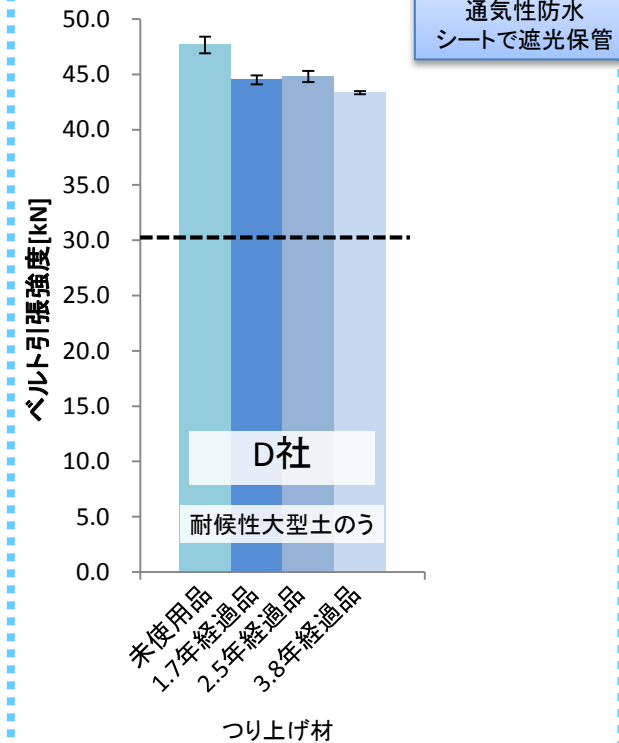
耐候性試験機(紫外線)で促進劣化させた容器

紫外線曝露



仮置場(市町村A)実使用品の容器

通気性防水シートで遮光保管



UV曝露3000時間(屋外使用10年相当)のダメージを受けたベルトも基準を達成、仮置場での実用に十分な強度を保持していた。